

課題文献

牧里毎治「高齢者をめぐるソーシャルサポート・ネットワーク」

沢田清方・上野谷加代子編, 1993, 『明日の高齢者ケア②: 日本の在宅ケア』中央法規, 233-256.

発表者 山本昴亮氏

ディスカッション

- ・今回この論文を読んでみて、法人のような組織とネットワークとの違いについて考えさせられた。原則は整理されているが、ネットワークについては、特長とか欠点とかを整理しながら考えないといけないと思った。
- ・ネットワークの形成原理として個性尊重の原則が強調されている。組織化されていくにつれてある程度個性は消していくんだけど、ネットワークの原理としては個性を活かしていくと。そのためにコーディネーションが大事と言っている。この専門性は大事だなとあらためて思った。
 - 自分は、組織とネットワークの違いがあまり良く分かっていない。
 - 組織とネットワークの違いについては、ネットワークの原点には家族とか知人、同窓生のような個人の自然発生的な社会関係のセットがあって、他方の極には官僚制、上意下達の組織がある。その中間に組織化の程度が異なる形態が様々にあると考えると良いのではないか。
 - この論文が書かれた時期は、開放性、対等、個性尊重のネットワーク原理を既存の組織にも適用して考えていこうというような運動、改革の思想が広まった時代なので、牧里の著述にも、現実を超えて理想というかあるべき姿が織り込まれている点に注意が必要。
- ・この論文の視点から現在の介護保険サービスをみるとパターンナリスティックすぎるかなあと思うところがある。
- ・以前この研究会で取り上げた松岡 (2015) が、ソーシャルサポート・ネットワーク (SSN) も一つの介入である以上、ワーカーからの操作性が否定できないんじゃないかと指摘していた。SSN は良い部分だけじゃなくてマイナスもみるべき。支援の実際には、本人が良い、ワーカーから見て悪いということがしばしば出てくる。宗教集団とのつながりとか。
 - 自分の職場では、いまゴミ屋敷の案件が複数出ていて。支援の見立て方がワーカーにずいぶん違う場合がある。一方ではきれいさっぱり片付けることがワーカーのミッションのように考えている職員と、本人の意向を尊重しながら片付かなくてもいい

や、無理、と対話を重ねていく職員と。

→ご意見を聞いていて、支援者がすべてをやろうとするのは驕りだなあと思った。支援者はネットワークを遠くからながめていよいよやばいと思ったときに介入するという感じかなと思った。

→介入操作性という話を聞いていて、この論文を読んでいる中ではあまり意識していなかった。発見として受け止めた。ネットワークを遠くから眺めてみる視点大事と。

→1990年代の時点ではこの論文の視点は大事。変わらない部分もあるだろうと思うが、20年、30年経って考え直さないといけない部分もあるのかなと思った。

- この論文で提示されているスター型、ループ型は「目標」なのか。
 - 類型とされているからこんなパターンがあるよと。それぞれの特徴を押さえてネットワークづくりをしていくことが必要くらいに考えておいてよいのではないかな。
- この図では介護者家族が出ていない。どこに位置すると良いのか。描いてみると面白いと思った。また、サ高住は誰がコーディネーションするのだろうと思った。
- 自分はコーディネーター間の連携に関心を持っていて。VC、SC、CSW等々。異質性重視の組織化というのが、同質／異質が混在するなかでどうつくっていくか。可視化をしないと、主観的にやるとうまくいかなくて、それぞれの強みを可視化して相互を知ったうえで連携していくことが大事。異質性を可視化していくことが大事だと感じた。
- 協働性というなかでいくつかパターンがあると思った。①存在価値を主張したくなる（これは包括だ！とか社協だとか住民だとか）。②負担（やりたくない、関わりたくない。社協がやるべきじゃない、住民がやることじゃない）。
- やっぱりコーディネーターが必要。どんなスキルが求められるか言語化していくことが必要。
- 地域生活の自然発生のネットワークができにくくなっているなかでの支援について調べてみたいと思っている。ネットワーク研究は、当事者研究が多いが、当事者を支援する人のネットワークを調べてみたい。
- 介護福祉士の小規模多機能型居宅介護の研修に関わっている。SSNをどう伝えるだろうと思ったときに、ネットワークという言葉でなく、チームと言いつつ。自然発生のSSNが途切れないようにしましょう。と。小規模多機能型居宅介護はサービス提供だけのケアマネジメントへのアンチテーゼ。本人と家族が中心にいる。近隣の人々もチームの一員。これを介護ではチームと呼んでいる。また、コーディネーションとは言わずにチームリーダーの重要性と教えている。支援のネットワークといったときに単にネットワークなの

か。チームだなど。(牧里のネットワークの形成原理では開放性が指摘されているが) 一時的で出入り自由歓迎はない。一方で、コーディネーターというネットワークという言葉を使いたくなる。ボランティアコーディネーターの概念とセットになっているのかもしれない。